

令和3年度

三鷹中央防災公園・元気創造プラザ

総点検に関する報告書

令和4年3月

特定非営利活動法人三鷹ネットワーク大学推進機構

目次

I.	令和3年度総括	1
II.	令和3年度の取り組みについて.....	4
III.	会議等の記録について.....	5
1.	学識参加「助言者会議」の記録.....	5
2.	職員ワークショップの記録.....	9
3.	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 市民向け縦連携情報発信動画の作成...	12
4.	事務局会議の開催.....	14
IV.	資料	17

I. 令和3年度総括

三鷹中央防災公園・元気創造プラザの「総点検市民会議」での討議を経て

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授
社会デザイン研究所所長
中 村 陽 一

三鷹市が 2019（令和元）年度から取り組んでいる三鷹中央防災公園・元気創造プラザの総点検について、2020（令和2）年度に実施した「総点検市民会議」を軸とする、2021（令和3）年度の活動から見えてきた、今後のコミュニティデザインへ向けての「論点」を中心に、以下簡潔にまとめてみたい（取り組みの内容や検討結果を反映した今後の基本的な考え方については、別途まとめられている実施報告書をご参照いただきたい）。

この総点検自体は、2017（平成29）年のオープン以来、多くの市民に利用されている同施設について、ハード・ソフトの両面から多角的な視点で点検を行うことで、施設をより良く活用することを目的としている。

今回も前年度に引き続き、やはり三鷹市での市民参加による「総点検」として、ぜひ 21.5 世紀型の新しい市民参加方法論につながるような活動でありたいと考え、そのための触媒となりうるプレイスメイキング、タクティカルアプローチといった方法を重視した。

すなわち、長期スパンでの構想・計画よりも、市民の暮らしに沿ったショートスパンからの試行錯誤を大切にし、大所高所からの「形成」や「つくる」ということではなく、持続可能で内発的な取り組みが重要だと考えた。

この「内発的な取り組み」とは、広場・サードプレイス・ソーシャルキャピタル・ネットワークといった社会デザインのキーワードとも親和性があり、一気に変革や変動を実現させるのではなく、たとえばコミュニティデザインを積み重ねていった先に新たなデザインを実現するような考え方を基本に据えたいという思いを継続して大切にしている。建築物や建築空間を、その機能や役割、そこに行き来する市民の関係性から見ることによる地域や社会（課題）との連結可能性を追究しようとする視点の持続性に留意した。同時に、地域や社会（課題）の側から照らし出される点を本年度もできるだけ丁寧に抽出しようとしている。

既存の考えや、いま計画にあがっているものは可視化できるが、まだ見ぬものやこれから俎上にのぼせられるものについては、上記の方法論による創造力／想像力の「引出し」が必要であり、今年度の取り組みによって、そこが見え始めていると考えている。

次年度以降へ向けて、「オープンであること＋つながり（へ向けて開かれていること）＋ソーシャルキャピタル（社会関係資本）」の3つの要素が鍵となるが、それへの仕掛けとし

て、コミュニティや社会の課題との出会いと連結が生まれる方向として、①複合施設から、諸機能融合施設へ、②ゆたかな場づくり（プレイスメイキング）へ向けての継続的改善、③21・5世紀の市民参加の推進、④市民知と職員参加の融合の4つの方向性を継続させつつ、さらなる深化をはかる必要がある事をあらためて確認しておきたい。

まず、①については、スポーツ・子ども発達支援・総合保健・高齢者福祉・生涯学習・総合防災、そして「三鷹中央防災公園」という7つの機能の複合施設という特性を活かしながらも、フロアごとの活動の相互連携による諸機能融合施設をめざすことをさらに考えていきたい。今年度の「縦連携」をめざした取り組みがその起点になるものとする。

②については、1階や地下1階、駐輪場や公園など、多くの人々が利用する「共有スペース」において、ゆたかな場づくり（プレイスメイキング）へ向けて継続的な改善に取り組むことである。そこでは、「居心地の良い場所」として市民に親しまれるサードプレイス性の追求をめざす意味で、多角的なワークショップ形式等による具体的な討議を継続深化させていく必要がある。新型コロナウイルス感染症の収束を待ちつつ、実行に移して行くことが望まれる。

③については、利用者・市民の参加により、「魅力的な場づくり」を進め、多くの市民の利用はもとより、利用の質を深めていくアイデアを生み出すための「ウォークショップ（仮称）」など市民参加の具体的な仕組みをあらためて実現していきたい。そのためにも、コアとなる「人財」の輩出にも留意していくことが肝要と考えている。

④については、市民の知恵と助言者会議等の有識者の助言を融合させつつ形にする「市民知」と職員参加による活動との融合を目指すことが肝要となってくる。本年度取り組んできた職員参加をさらに推進していく先に、ここでも新たな参加の方法論に結び付けていければと考える。

全体を通じて言えることとして、縦連携など「掛け算」の発想は今後も推し進めていきたい。社会デザインとは「関係性を編みなおし、活かす」ことであると考えれば、「掛け算」するところから、今後どういう風に新しい組み合わせを生み出していけるか、次のステップで職員も併せ、その発想をもってもらい新しい組み合わせを生み出すことにつなげていってほしいと考える。そのためにも、＜健康×スポーツ＞なども、対象をより明確にしたうえで、今後はそれぞれの対象ごとの取り組みに発展させていきたいところである。

もし＜健康×スポーツ＞の発展版を考えるのであれば、たとえば、「社会的処方」の視点から考えることも視野に入れて行く必要を感じる。そこで一種の文理融合視点はきわめて重要な方向性ではないかと考えている。

また、ウェルビーイング、ウェルネスツーリズムといった新しい分野についても、掛け合わせのヒントとして今後検討していてもよいのではと思う。

次年度はいよいよ実践、実証実験に入っていく年度となるため、対面要素も入れていい形での実施を意識し、職員参加のワークショップ等についても参加者の理解が深まるような場をより意識して実現していくことを重視したい。たとえば、「フューチャーデザイン」な

どについては、参加する利用者・市民・職員に、「場をつくる」意味合いを理解してもらうためのインターフェイス（接合面）をしっかりとつくっていく必要があると考える。

次年度も、上記を推進するための調査（インタビュー、フィールドワーク）、セミナー、ワークショップ等の実施はもちろんだが、それらをふまえ、並行させつつ、明解な方向性を議論し打ち出せるダイナミックな「場」づくりが必要ではないかとあらためて考えている。大学や研究者が関わってのたんなる調査報告で終わりではなく、実践的なコミュニティ・オーガナイズのための場が立ち上がってくるそのときにこそ、バージョンアップした「三鷹らしさ ver. x」が可視化されるときが来ると、私見では感じている。

最後に、本事業は、個別具体の事業の形を採りつつも、①「社会を良くする」ちょっといいアイデアやスキルに留まることなく、課題の解決へ向け、変革を現実のものにして「社会を変えていく」粘り強いプロセスを歩むこと、②そのための構造的な探究はもとより、社会の現場と往復し、当事者性と内発性をそなえた実践的なモデルやプランを連続的に産み出して行くこと、③他者（の生活）と出会い、交信し、関係性を活かし編み直していくこと、といった社会デザインの実践として、「デザインをデザインし直す」ことからさらに 21・5 世紀の参加型地域形成のための〈ソーシャルガバナンス〉にもつながり得る大きな射程に連なるものと位置づけられることを付言して本年度のまとめとしたい。

II. 令和3年度の取り組みについて

1. 学識参加「助言者会議」

(1)	令和3年10月18日(月) 午前10時～12時	中村 陽一 立教大学大学院 教授 槻橋 修 神戸大学大学院 准教授 青木将幸氏 (ファシリテーター) 現状確認と今後の進め方について
(2)	令和4年3月24日(木) 午前9時30分～10時30分	中村 陽一 立教大学大学院 教授 槻橋 修 神戸大学大学院 准教授

2. 職員ワークショップ

(1)	職員ワークショップの開催	令和3年11月18日(木) 午後2時～4時
(2)	職員ワークショップの開催	令和4年2月10日(木) 午後2時～4時

3. 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 市民向け縦連携情報発信動画 作成

縦連携掛け合わせ	「健康」×「スポーツ」	
出演	助友裕子教授 日本女子体育大学教授、三鷹市スポーツ推進審議会会長	
タイトル	(1)	元気創造プラザに寄り道！ 元気を持ち帰ろう ～周囲に安心と元気を与えるために～《65歳以上の方向け》
	(2)	元気創造プラザに寄り道！ 元気を持ち帰ろう ～あなた自身が元気であるために～《30～40代女性向け》

縦連携掛け合わせ	「防災」×「全館」	
出演	三鷹市防災課職員 三鷹市防災キャラクター「じじよまる」	
タイトル	じじよまと一緒に災害時の三鷹中央防災公園・元気創造プラザを学ぼう ～みなさんを守る中心拠点として～	

4. 事務局会議の開催

三鷹市スポーツと文化部、受託事業者等の事務局において、オンラインを活用しながら、事業の進め方、職員ワークショップ、情報発信動画の内容等について、計8回の会議を開催。

III. 会議等の記録について

1. 学識参加「助言者会議」の記録

助言者 中村 陽一 氏（立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授）

槻橋 修 氏（神戸大学大学院工学研究科建築学専攻准教授）

青木 将幸 氏（ファシリテーター）

(1) 令和 3 年 10 月 18 日（月）午前 10 時～12 時（オンラインミーティング）

出席者	<p>【助言者】立教大学 中村陽一教授 神戸大学 槻橋修准教授 ファシリテーター 青木将幸氏</p> <p>【三鷹市】スポーツと文化部長、同部調整担当部長、芸術文化課長、担当 1 名</p> <p>【事務局/㈱ソシオエンジンアソシエイツ】担当 3 名</p>
検討内容	令和 3 年度の進め方について
<p>①令和元・2 年度の取組を踏まえて令和 3 年 7 月に定めた「施設運営の基本的な考え方」（別添資料）を事務局から説明、共有した。</p> <p>②市民参加ワークショップ・縦連携の取組について、オンラインで対応できる具体的内容について、意見が出された。</p> <p>ア) ワークショップの手法等について</p> <p>槻橋先生：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 50 名以下の規模であれば、バーチャルワークショップの開催は可能。 ・ 資料を事前に渡し各自でコースを見てもらうという段階を設けるのであれば、バーチャルでの開催は可能。三々五々で構わないので各階を歩いて回る機会を設ける等の、事前の仕掛けづくりが必要。 ・ 模型を目の前にした参加者とリモートで対話をするワークショップ（以下 WS）をしたことがあるが、現地側のファシリテーターの技術が必要。 ・ リモートで行う場合、画面越しで参加する側に実感をもたせることが大事。 ・ タイムラグがコミュニケーションを硬直させる可能性がある。 ・ 市民参加者には今後創造的なプロセスに関わることを前提としているので、WS 内でその場限りで終わらない中期的なビジョンを話し合うことも大事。 ・ 施設について、各階の担当者に空間説明をしてもらう、あるいは同じ人にインタビューしてもらうだけでも新たに理解できることは多い。 ・ 施設すべてを見る必要はない、一度に全部見ようとしなくてよい。 ・ 各施設の担当者が総点検に加わり、将来的にプレイスメーカーのネットワークをまず作っていくようになればよいのではないかと。 <p>→若手を中心に、フロアの紹介動画を作ってもらうのはどうか。</p>	

- ・ 総点検後に見た目の変化を生み出したい。結果として三鷹市の関係人口が増える、関係者が納得するような場づくりができれば。

事例：プレイスメイキングの一事例、神戸三宮センター街 2F 通路にベンチを設置したら、人がいる風景がうまれた

(HP 三宮センター街 <https://www.kobe-sc.jp/> 資料参照)

中村先生：

- ・ バーチャルウォークショップについて、コースをライブ配信、あるいは事前録画・当日配信する方法は考えられる。
- ・ バーチャルで実施する場合、ポイントは現地（元気創造プラザ）でのファシリテーター。
- ・ ミニ講座＋ゲスト講師（リアルあるいはオンライン）＋質疑という企画をハイブリッドで行っている（@青森）。
- ・ ミニ講座は講師と接点をもたせた内容（雪花雪中塾）。

青木氏：

- ・ 特定の人物に焦点をあててライブ配信する構図（@軽井沢風越学園）は反応がよかった。発表会の場で保護者 100 人ぐらいを対象、チャットも拾いながら中継実施。
- ・ 生らしさ、実態感をだすことがポイント。
- ・ 交わりがポイントなので、小規模（5～6 人、スタッフを含めて 10 人）リアルで開催するのが望ましい。
- ・ 5 つ程度のグループに分けてソーシャルディスタンスをとりつつの、同時進行のリアルワークショップなど。
→最後だけオンラインで繋いで一体感をだすとライブ感がでる（槻橋先生）。
- ・ オンラインオンリーの場合、WS はあきらめたほうがよい。
- ・ リアルな情報を共有する仕掛けを作る。パーソナリティが重要な役割。

イ) 縦連携の方法について

- ・ 番組仕立てで、1 人のパーソナリティが利用者にインタビューしていくのは面白いのではないか（青木氏）。
- ・ 「縦連携ラジオ」などとして施設で流しても面白い。ラジオ番組の裏テーマにスポーツ×〇〇など、分野を越えたテーマをおいてはどうか（中村先生）。
- ・ リアルな言葉で各フロア、各分野の毎回 2 団体ぐらい紹介し、意見交換してもらうなど（青木氏）。
- ・ 施設を利用する団体からお題（課題）をだしてもらい、他団体からの意見・アイディアをもらって解決の道をさぐる。コミュニティ オブ プラクティスの三鷹元気創造プラザ版（中村先生）。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 掛け合わせの裏シナリオ考えることを職員ワークショップのテーマにする、またそれを踏まえて、縦串ラジオのなかで深めることができればよいのではないか（事務局）。 ・ リアルな情報を共有する仕掛けを作る。パーソナリティが重要な役割（青木氏） <p>《今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「縦串ラジオ」的な場づくり ・ 掛け合わせテーマによる縦連携のシナリオづくり ・ 登場人物にはその後プレイスメーカーになってもらうのが理想 ・ 今年度のオンラインでの場づくりを踏まえたうえで、今後元気創造まつりといったリアルな場での縦連携を具体化していく。 ・ その方向性、ゴールイメージをつくるのが今年度の目標 ・ 自分たちの施設として愛着をもってもらうための仕組みづくりを今年度は大事にしていく。

(2) 令和4年3月24日（木）午前9時30分～10時30分（オンラインミーティング）

出席者	<p>【助言者】立教大学 中村陽一教授 神戸大学 槻橋修准教授</p> <p>【三鷹市】スポーツと文化部長、同部調整担当部長、芸術文化課長、担当1名</p> <p>【事務局/ネットワーク大学推進機構】担当1名</p> <p>【事務局/㈱ソシオエンジンアソシエイツ】担当3名</p>
検討内容	<p>令和3年度の取り組みについて</p> <p>令和4年度について</p>
<p>① 令和3年度の取り組み（縦連携情報発信動画等）について</p> <p>槻橋先生：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 違う部署が掛け合わせることで、重なるところと、違うところが見えやすくなる、発信力となることが一つの効果。今後も積極的にしてみてもどうか。掛け算することで別の効果がうまれるかもしれない。 ・ 健康×スポーツの動画について、コンセプトはとてもよかった。課題は今後どう実装していくか。 ・ どのように発信し、視聴者層を広げていくかが課題。 ・ トライアルとしてはよいが、映像コンテンツのクオリティ（デザイン面）は発信するうえで大事なので、今後検討したほうがよい。 <p>中村先生：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掛け算は今後も進めていったほうがよい。社会デザイン、関係性を編みなおし、 	

活かすことが大事。掛け算するところから、今後どういう風に新しい組み合わせを生み出していけるか、次のステップで職員にその発想をもってもらい新しい組み合わせを生み出すことにつなげていってほしい。

- ・ 社会デザインの実践を今後も続けていってほしい。
- ・ 健康×スポーツについて、対象（年齢層の観点ではなく）が少し中途半端のように感じた。対象をもっと明確にし、今後は対象ごとに分けて作っていったほうがよいのではないか。
- ・ 健康×スポーツの発展版を考えるのであれば、社会的処方視点（東京医科歯科大学助教授 長峰由衣子先生 等）から考えてもよいのではないか。
- ・ ウェルビーイング、ウェルネスツーリズムといった新しい分野についても、掛け合わせのヒントとして今後検討していてもよいのでは。
- ・ 映像とテキストについて、難易度等をあわせたほうがよい

② 令和4年度について

槻橋先生：

- ・ 今年度すでに一步踏み出すことは出来ており、ヘルスプロモーション等、全体で共有できるようなコンセプトの種は得られている。来年度の戦略立てに繋がっていけばと思う。

中村先生

- ・ 令和4年度はいよいよ実践、実証実験に入る年度になるので、対面要素も入れていい形で実施できればと思う。
- ・ 職員参加のワークショップ等について、参加者の理解が深まるような形の場をより意識して実施していければと思う。
- ・ フューチャーデザインについて、参加する利用者・市民・職員に、「場をつくる」意味合いを理解してもらうためのインターフェイス（接合面）をしっかりとつくっていく必要がある。

2. 職員ワークショップの記録

(1) 第1回 職員ワークショップの概要

- ◆開催日時 令和3年11月18日(木) 午後2時～4時
- ◆内容 プラザを運営する職場の職員同士で、各フロアの効果的な情報発信やプラザ内連携事業(市民向け講座等)の企画などについて考える。
オンライン会議システム Zoom を使ったワークショップ研修。
- ◆講師 ファシリテーター 青木将幸氏
- ◆参加者 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ内に入居する職場及び関連する職場の
主事・主任・主査職を中心に14人(女性10人 男性4人)
- ◆ワークショップで出された意見

- ・避難×料理(調理師) (例)被災時の炊き出し講座
子ども発達支援センターには栄養士がいるので、避難時の炊き出しなどで協力できるのではないかと。
避難時の食事等の講座。スポーツ事業者等の参加も検討の余地があるのではないかと。
一日避難体験のようなことが体育施設でできるのも面白いのではないかと。
- ・障がい者×子ども (例)「みんなで考えるインクルーシブ遊具」
インクルーシブ遊具について検討できるのではないかと。
- ・若者×スポーツ (例)避難所運営ゲーム
避難所の運営ゲームのようなものがあれば、若い人を対象に実施できるのではないかと。
幅広い世代と防災訓練ができる策がないかと。
- ・生涯学習×社会福祉協議会 (例)アートフェス
屋外でいろいろな展示をする・光を使った演出をするなど。
- ・健康推進課×福祉バザー×生涯学習センターフェスティバル
食育の講座の延長で防災公園で食事ができるブースを設置するなどの連携ができると面白いのではないかと。
- ・生涯学習センター×社会福祉協議会
生涯学習センター(4階)利用者の作品を社会福祉協議会(3階)で展示することができないかと。
- ・公園を使ったイベント、野外映画祭、ダンスフェス
- ・それぞれのフロアの事業・イベントを一緒にできればいい。
文化祭のように各フロアが参加する形
- ・介護予防講座として生涯学習センター事業ができるか。音楽ワークショップ等。

(2) 第2回 職員ワークショップの概要

- ◆開催日時 令和4年2月10日(木) 午後2時～4時
- ◆内容 プラザを運営する職場の職員同士で、各職場の効果的な情報発信について考える。
オンライン会議システム Zoom を使ったワークショップ研修。
- ◆講師 ファシリテーター 青木将幸氏
- ◆参加者 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ内に入居する職場及び関連する職場の
主事・主任・主査職を中心に10人(女性8人 男性2人)
- ◆ワークショップで出された意見

テーマ1：プラザを動画でPRするとしたらどのような内容が良いか

- ・ スポーツ施設のインパクトがあるような映像を使えないか。
- ・ 子ども発達支援センターへの来やすさという観点だと一次預かりや広場事業もあるので、子どもやお母さんたちが楽しそうに遊んでいる所などを映像で見せる。
- ・ 高齢者の講座等についてはアピールポイントなのではないか。
- ・ スポーツセンターは設備がいろいろと整っていて新しくてきれいなので、その点を強調したい。
- ・ 新しいきれいな施設になっているけれど、利用者からは足りない部分について色々と言われるので、どうしたら満足してもらえるか、という課題がある。「新しさ」がプラザのウリだと思う。
- ・ 公園についての「押し」ポイントを強調したい。
- ・ 子どもは遊具のあたりがお気に入り。土日に来てみると、犬を連れていたり、走っていたりする人もいる。
- ・ 夕方になると小中学生がたくさん集まる。芝生だというのがアピールポイント。

テーマ2：プラザの利用者や潜在的利用者（これから利用する可能性のある人たち）が見たいと思う動画とは？

- ・ 新規利用者を開拓したいが、団体登録が必要というのがハードル（＝生涯学習センター）になっている。
- ・ どのような活動ができるのかをPRすることが大事。
- ・ 高齢の方は、動画をあまり見ないかもしれない。
- ・ 利用者の方に出演してもらうのはどうか。
- ・ 施設内の説明だけでなく、利用者同士の交流の様子が伝えられる動画だといいPRになるのではないか。
- ・ プラザ内でのイベントを実施する際に動画配信をしてはどうか。
- ・ 社協の歩く運動事業（歩数を記録してスタンプ押す）について、健康・スポーツとの掛け合わせて紹介ができるとよいのではないか。
- ・ 歩くことで得られる良さを伝える内容。見やすい動画で一緒に実践できるようにする

と良い。

- ・ランニング走路を使って「いい歩き方」のレクチャーなどはどうか。
- ・講座PRのための動画あっていいのではないかな。
- ・実施した講座の紹介動画（こういうことやりました）。今度参加してみようと思っ
てもらったための素材として、文章だけでなく動画で残せるといいのではないかな。
- ・いろいろな事業の紹介動画ができると良い。
- ・生涯学習センターで市民が企画に関わっていることが知られていないのでPRする必
要がある。
- ・来られない人も見られるレポート動画の需要はあるのではないかな。
- ・プラザのホームページは、生涯学習センター以外の各施設の更新がなかなか進まな
い。せっかくのプラザホームページなので、活用できると良い。

テーマ3：防災に関するショートムービー制作について

- ・場所を明確に伝えたほうがいい。市民は意外に場所を知らない。平常時はどういう使
われ方をしている場所か、関心をもってもらえる導入にする。
- ・防災だけを全面に打ち出すと、見てもらえないかもしれない。
- ・各階がどのように使われているか、伝えられると良いのではないかな。
- ・動画が難しければ、静止画をパラパラ漫画的に見せながらつくる。
- ・フリーの音源で音楽を入れる。音は大事な要素。
- ・キャラクターを効果的に使う。声は発しない設定のじじよまるだが、じじよまるが案
内するのはどうか。
- ・関係機関が集まる場所。市民が避難する場所。救援物資が集まる場所。この3点を
伝えたい。
- ・伝えたいことが堅めの内容なので、柔らかく伝えることを考える。
- ・職員目線ではない伝え方が大事。じじよまるとのやりとりで、職員が一市民として気
づいていくという内容はどうかな。
- ・ベンチかまどを使って楽しさをドラマ仕立てにする。

3. 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 市民向け縦連携情報発信動画の作成

(1)「健康」 × 「スポーツ」

動画 I

元気創造プラザに寄り道！ 元気を持ち帰ろう
 ～周囲に安心と元気を与えるために～ 《65 歳以上の方向け》

動画 II

元気創造プラザに寄り道！ 元気を持ち帰ろう
 ～あなた自身が元気であるために～ 《30～40 代女性向け》

出演：日本女子体育大学 助友裕子教授



	動画 I		動画 II	
ターゲット	65歳以上男女		30代女性	
メッセージ	周囲に安心と元気を与えるために		一番大事なあなた自身が元気であるために	
	スライド	資料	スライド	資料
気づく 【共通】	①ヘルスプロモーションしよう	・WHO1986/2005	①ヘルスプロモーションしよう	・WHO1986/2005
見つける	②7つの健康生活習慣	・プレスロー7つの生活習慣	②運動不足が主要死因リスクの第3位	・Lancet日本特集号
考える	③日本人の歩数の現状 ④歩数が与える健康影響	・国民健康栄養調査(歩数) ・スポーツ庁(歩数)	③日本人の運動習慣の現状 ④スポーツの効果	・国民健康栄養調査(運動習慣) ・スポーツ庁(メンタル)
繰り返す	⑤グループで運動しよう	・Kanamori,etal. 2012	⑤スポーツでココロ豊かに	・スポーツ庁(価値)
生かす 【共通】	⑥⑦この動画で三鷹を健康に	・Learning Partner Model ・イノベーション普及理論	⑥⑦この動画で三鷹を健康に	・Learning Partner Model ・イノベーション普及理論

(2)「防災」 × 「全館」

動画Ⅲ

じじよまと一緒に災害時の三鷹中央防災公園・元気創造プラザを学ぼう
～みなさんを守る中心拠点として～

出演：三鷹市防災課職員

三鷹市防災キャラクター「じじよまる」



4. 事務局会議の開催

(1)	令和3年9月9日	今年度の進め方について (新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた市民参加、職員参加のあり方)
<p>①日 程 令和3年9月9日(木) 午後2時～3時</p> <p>②出席者 三鷹市スポーツと文化部 2名 株式会社 エンジン・アソシエイツ 2名</p> <p>③検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月に議会報告され、市のホームページにも公表されている「施設運営の基本的な考え方」について、三鷹市から説明。 ・ 引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、ワクチン接種会場として館内の利用にも一部制限がかかり、場づくりをする取組のあり方について、先行き読みづらい状況が続く中、現実的な計画の進め方が求められる。 ・ 前年度に助言者から提言のあった「ウォークショップ」という館内を市民参加により巡るワークショップをはじめ、市民参加による対面の場づくりについては支障が生じる可能性が高い。 ・ 館内の縦連携により部署やテーマの掛け算が図られながら、その成果を市民に対する情報発信として展開する取組などが考えられる。 ・ 館内の縦連携等について職員ワークショップで検討を行い、職員がまず梶橋先生ご提唱の「プレイスメイカー・コミュニティ」を形成、将来的には市民も巻き込んでのコミュニティに発展させ、自分ごととして愛着が持てるプラザの運営に関わりを持ってもらうことも望まれる。 		

(2)	令和3年10月15日	ロードマップの見直しについて、助言者会議について
<p>①日 程 令和3年10月15日(金) 午前9時～10時 (オンラインミーティング)</p> <p>②出席者 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 中村陽一教授 三鷹市スポーツと文化部 3名 株式会社 エンジン・アソシエイツ 3名</p> <p>③検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回助言者会議を10月18日(月)に、第1回職員ワークショップを11月18日(木)に開催する。 ・ 市民参加ワークショップ(2回)、縦連携講座(3回)、2回目の助言者会議については、それぞれ兼ねる形での開催を検討する。 ・ 10月18日開催予定の助言者会議では、オンラインによるプレイスメイキングの場づくりのあり方について、オンラインで工夫できるアイデアについて検討を行う。 		

(3)	令和3年10月28日	職員ワークショップについて、今後の進め方について
①日程	令和3年10月28日(木) 午後4時～5時40分 (オンラインミーティング)	
②出席者	三鷹市 スポーツと文化部 3名 株式会社 エンジン・アソシエイツ 3名	
③検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11月18日開催の職員ワークショップについて、ファシリテーターとの連絡方法、事前打ち合わせについて確認を行った。 ・ 2回の職員ワークショップについて、1回目は縦連携のアイデア出し、2回目はワークショップの題材になるようなフロア紹介ビデオ等の原案、シナリオ作りを行うことを検討する。 ・ 縦連携講座3回、市民参加ワークショップ2回について、計4回という形に整理して開催することを検討する。 	

(4)	令和3年12月9日	次年度の取組について、縦連携講座案について
①日程	令和3年12月9日(木) 午後7時～8時 (オンラインミーティング)	
②出席者	立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 中村陽一教授 三鷹ネットワーク大学推進機構 2名 三鷹市スポーツと文化部 3名 株式会社 エンジン・アソシエイツ 2名	
③検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度総点検のワークショップについて、フューチャーデザイン手法等を検討する。 ・ 縦連携講座は対面による参加型ではなく、オンライン対談、オンラインインタビュー形式による情報提供型を検討する。 	

(5)	令和4年1月14日	縦連携講座・配信動画作成等について
①日程	令和4年1月14日(金) 午後3時～4時 (オンラインミーティング)	
②出席者	三鷹市スポーツと文化部 4名 株式会社 エンジン・アソシエイツ 3名	
③検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦連携講座動画は、15～20分程度のワンポイント講座的な内容とする。 ・ 動画は、Zoom収録による撮影後に、字幕や音響等の編集を行う。 ・ 完成後は、三鷹市の公式YouTubeサイトにて公開する。 ・ 掛け合わせテーマ 候補 <ul style="list-style-type: none"> ア) 防災課×子ども発達支援センター イ) 健康推進課×スポーツ推進課 ウ) 健康推進課×子ども発達支援センター ・ 公開までのスケジュールについて確認 	

(6)	令和4年2月8日	配信動画の内容について
<p>①日 程 令和4年2月8日（火）午後3時30分～4時30分（オンラインミーティング）</p> <p>②出席者 三鷹市スポーツと文化部 4名 三鷹市総務部防災課 1名 株ソシオ エンジン・アソシエイツ 3名</p> <p>③検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 配信動画の内容として、災害時の機能転換の紹介を中心とし、できる限りコンパクトなものとする。 ・ シナリオ等について確認 		

(7)	令和4年2月15日	配信動画の内容等について、助言者会議について
<p>①日 程 令和4年2月15日（火）午後1時～2時（オンラインミーティング）</p> <p>②出席者 日本女子体育大学 助友裕子教授 三鷹市スポーツと文化部 3名 株ソシオ エンジン・アソシエイツ 3名</p> <p>③検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ヘルスプロモーション」に関する動画について、助友先生と制作イメージの確認を行う。 ・ 第2回助言者会議について、3月24日（木）に開催することを確定。内容について協議 		

(8)	令和4年3月1日	配信動画の内容等について
<p>①日 程 令和4年3月1日（火）午前11時～12時（オンラインミーティング）</p> <p>②出席者 三鷹市スポーツと文化部 3名 三鷹市総務部防災課 1名 株ソシオ エンジン・アソシエイツ 3名</p> <p>③検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災に関する動画について、撮影に向けた打ち合わせ、確認を行う。 		

IV. 資料

資料1.

三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 施設運営の基本的な考え方（令和3年7月）

三鷹市では令和元年度から、三鷹中央防災公園・元気創造プラザの総点検に取り組んでいます。この総点検は、平成29年度のオープン以来、多くの皆さんに利用されている同施設について、ハード・ソフトの両面から多角的な視点で点検を行うことで、施設をより良く活用することを目的としています。

総点検2年目となる令和2年度に実施した市民参加、学識参加、職員参加で出た意見を踏まえて、以下のとおり「施設運営の基本的な考え方」をまとめました。今後は、この5点の考え方をもとに、より良い施設運営をめざします。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響等により、令和3年度の市民参加等の取り組みについては、感染者数の動向やワクチン接種の状況を見ながら、年度の後半に進めていくこととします。

1 複合施設から融合施設へ

三鷹中央防災公園・元気創造プラザは、「総合スポーツセンター」「子ども発達支援センター」「総合保健センター」「福祉センター」「生涯学習センター」「総合防災センター」と「三鷹中央防災公園」の大きく7つの機能が含まれる複合施設です。平成29年度のオープン以来、多くの市民の皆さんにご利用いただいておりますが、老朽化していた旧施設・機能を、市民活動を止めることなく再設置するために創られた「多機能複合施設」としての同プラザの特性上、専門性の高いフロアごとの活動が独立した運営となっており、相互連携が薄いことに課題があります。

令和2年度の総点検の取り組みでは、参加した市民や職員、学識経験者から、各フロア間の交流や多世代交流など、施設全体を融合施設とするための意見やアイデアが多く出されました。新たな活動の場としてオープンした三鷹中央防災公園・元気創造プラザの特性をさらに発展させるために、各フロア間の「縦連携」による「融合施設」をめざします。

《令和3年度以降の方向性》

「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」が、スポーツ、生涯学習、福祉、健康、公園、防災の各機能が融合する「元気創造都市みたか」の拠点施設として機能するよう、「縦連携」による「融合施設」としての全館的な取り組みを推進します。

施設全体の情報共有の方法や、駐車場・駐輪場等の使い方、また、全館が融合するイベント等の企画・運営などについても継続的に検討します。

2 魅力的な場づくりのための更なる改善

多くの市民が利用する三鷹中央防災公園・元気創造プラザがより使いやすい施設となるためには、共有スペースの活用方法が重要なポイントです。1階エントランスや地下1階のスポーツエントランス、駐輪場や公園など、多くの人が利用する「共有スペース」について、「魅力的な場づくり（プレイスメイキング）」を進める必要があります。

令和2年度の総点検の取り組みでは、共有スペースの使い方や飲食・カフェ等の設置について、多くのアイデアが出されました。施設それぞれの機能に合わせて目的を持って来館・利用する人に加えて、「居心地の良い場所」「楽しい場所」として日常的に立ち寄る人が増えることで、市民に愛される施設として有効活用されることをめざします。

《令和3年度以降の方向性》

「共有スペース」の使い方やカフェ機能等については、魅力的な場づくりを進めるために、市民参加によるワークショップを令和3年度後半に実施する予定です。総合スポーツセンターや生涯学習センター等の具体的な利用方法については、指定管理者である公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団とも連携し、利用者の皆様がより使いやすい施設となるよう、改善に着手します。

3 市民参加の推進

三鷹中央防災公園・元気創造プラザの運営について、市民の皆さんの参加により「魅力的な場づくり」をめざしていくことが重要だと考えています。

令和2年度の総点検の取り組みでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインが中心の市民参加となりましたが、市民参加の方向性について多くのアイデアが出されました。多くの人に利用していただく三鷹中央防災公園・元気創造プラザがより魅力的な場となるために、継続的に行っているアンケート収集に加えて、1階ロビーやモール、公園等の場所を想定した共有スペースについて、施設を知ってアイデアを出すための「ウォークショップ」や、具体的な場づくりを図るワークショップ等を開催します。

《令和3年度以降の方向性》

令和3年度では、市民参加の1つの手法として、館内の見学会を兼ねた「ウォークショップ」（見学をして歩きながら、気づきやアイデアを共有するワークショップ）を実施します。新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、年度の後半に実施する予定です。

また、「総点検」が終了した後も改善が継続されるよう、施設全体について市民・学識経験者・職員が意見交換するための枠組みについて、令和4年度に立ち上げることをめざして検討します。

4 学識参加と職員参加

多機能複合施設を融合施設としていくために、助言者会議の助言を受けながら、職員参加による活動に取り組みます。

令和2年度は、助言者会議に加え、市民向け講演会及び総点検市民会議をオンラインを中心として実施しました。また、職員研修ワークショップをオンラインで開催するとともに、総点検市民会議では、オンラインでのグループディスカッションに職員も参加するなどの取り組みを進めました。今後は、各フロアの専門性を活かしつつ、フロア間の「縦連携」による市民講座等を開催することで、各機能の連携と新たな市民サービスの提供をめざします。

《令和3年度以降の方向性》

引き続き、助言者会議を開催して職員参加、市民参加に対する助言をいただきつつ、プラザ内に職場のある職員やスタッフの間の連携を深め、新たな市民サービスを提供するために、学識経験者の助言を受けながら、令和3年度から「縦連携講座」を開催します。

5 市民ニーズに対応した施設の改修と機能の改善

令和元年度、2年度の総点検の取り組みの中では、施設改修及び機能改善について、多くの意見・要望が寄せられています。

今後は、これらの意見・要望に基づき、市民参加を図りながら、施設の改修や機能の改善に取り組めます。

《令和3年度以降の方向性》	
元気創造プラザ全体に関する項目	
<ul style="list-style-type: none"> ● 共有スペースの改修の検討 ● カフェ・売店等の設置の検討 ● 1階エントランスの床の改修の検討 ● 駐輪場・バイク置場の増設の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ボランティアポイント」の導入等を見据えた券売機の機能向上 ○ 施設予約システムの改善の検討 ○ 駐車場の時間枠設定の改善の検討 ○ コミュニティバスの利便性向上の検討
総合スポーツセンターに関する項目	
<ul style="list-style-type: none"> ● プール更衣室床の改修の検討 ● プールサイド床等の改修の検討 ● スポーツ団体への貸出倉庫等の設置の検討 ● メインアリーナ南側窓の遮光改修の検討 ● 防球ネットの改修の検討 ● 競技用ラインの改修の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用料金回数券の導入の検討 ○ スポーツ教室の実施種目や実施方法の検討 ○ スポーツエントランスの窓口の改善の検討 ○ 個人開放の種目や開催曜日の検討
生涯学習センターに関する項目	
<ul style="list-style-type: none"> ● 学習室における扉の増設 ● 個人利用スペースの拡充の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用時間枠の見直しの検討 ○ キャンセル料の設定方法見直しの検討
三鷹中央防災公園に関する項目	
<ul style="list-style-type: none"> ● 未就学児対象遊具の設置の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の車両進入防止への対策の検討 ○ Park-PFI(※)の活用による改善の検討

●：施設改修に関する項目 ○：機能改善に関する項目

※Park-PFI：都市公園における民間資金を活用した新たな整備・管理手法。飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の道路、広場等の整備、改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度。

資料 2.

神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 槻橋修准教授からの話題提供

「神戸・三宮センター街 1 丁目商店街振興組合 10 年間のプレイスメイキング」

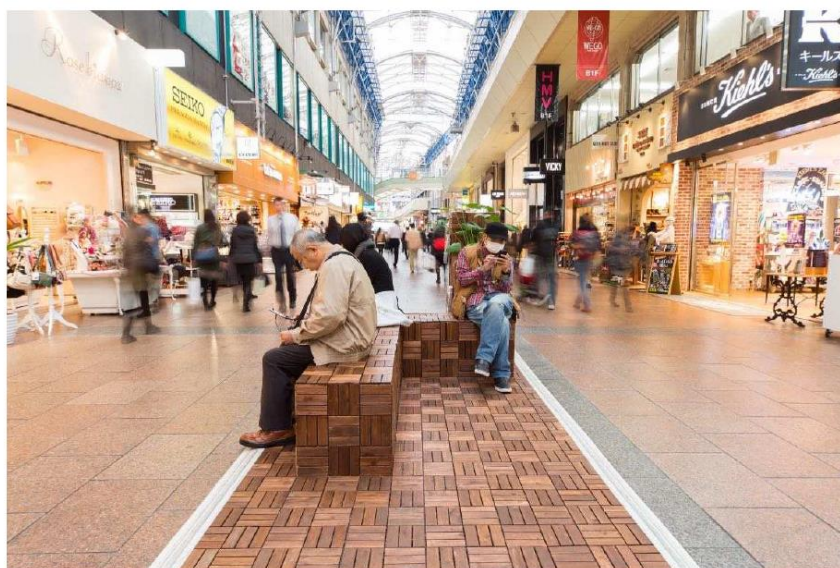
(出典:「三宮センター街 神戸と三宮センター街の歩み」)

■ 民からの取組：神戸・三宮センター街の取組

神戸三宮センター街 SANNOMIYA 2016 project



■ 民からの取組：神戸・三宮センター街の取組



■ 民からの取組：神戸・三宮センター街の取組



■ 民からの取組：神戸・三宮センター街の取組



■ 民からの取組：神戸・三宮センター街の取組



■ 民からの取組：神戸・三宮センター街の取組

